

審議会（平成25年3月6日開催）でいただいたご意見と札幌市の取組状況

1 札幌市産業振興ビジョンに基づく施策展開について

	ご意見	取組状況
1	<ul style="list-style-type: none"> ・6次産業化に着手したいと考えている人たちへの喚起が大事である。成功事例を増やし、6次産業化が身近にあるということを理解していただくことが重要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌市では、6次産業活性化を推進する補助事業を平成23年度から実施しており、これまで12件の事例を支援してきております。 ・事例の周知といたしましては、完成した商品のテストマーケットの実施や道外展示会への出展支援のほか、広報誌やマスメディアを活用したPRなどを行っておりますが、今後もより効果的な方法を検討してまいりたいと考えております。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金などの募集時期の問題もある。応募の時期が第1次産業者にとってずれがあるので、検討いただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1次産業者の方も対象である6次産業活性化推進補助事業は、5月の募集開始から随時受け付けをしており、第1次産業の繁忙期を過ぎてからの申請も可能です。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・民間企業の取組と行政の施策をトータルのにコーディネートしてくれる民間及び行政の人間がないのが今の北海道の現状ではないかと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、札幌市の外郭団体である「さっぽろ産業振興財団」に、北海道内の農業者を訪問し、ニーズ調査を行う道内連携コーディネーターを1名配置。また、市内の2次、3次産業者を担当するコーディネーターを1名配置して、現場のニーズを踏まえたマッチングを実施し、6次産業化の取組を推進しております。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・道内産の原料を使っていない商品が土産品として認知されている傾向もある。 ・道内連携マッチング事業が発展し、6次産業活性化推進補助事業と組み合わせた形で6次産業化を広げていく方が効果的ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見を踏まえ、平成26年度において、<u>道内の1次産業担当のコーディネーターを2名（農業担当、水産業担当）増員することを検討しております。</u>
5	<ul style="list-style-type: none"> ・6次産業化の気運は非常に高いが、ハードルが高い印象がある。もう少し垣根を低くした形で、例えば、市外の工場で製造して、流通は札幌市内企業で良いというスキームだと、違った形になっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・6次産業活性化を推進する補助事業は、道内の1次産業者と市内の2次、3次産業者が連携した製品開発の取組を支援するものですが、製造は市外で行っていても、流通や販売など3次産業が市内企業であれば、補助の対象としております。

	ご意見	取組状況
6	<ul style="list-style-type: none"> 札幌市で実施している「キラリ品☆卸隊商談会」の6次産業化展示商談会のような取組は考えられないか。 	<p>「6次産業化へのチャレンジ ものづくり・販売支援のための展示相談会」と題して、1次産業と2次・3次産業とのマッチングイベントを開催しております。平成25年2月の実施では、236名が来場（うち農業関係者は4割程度）、行われた商談のうち、今後の進展が期待できそうなものも30件程度あり、アンケートでも「非常に役に立った」との意見が大半でございました。</p>
7	<ul style="list-style-type: none"> 農産物の加工という観点から見ると、今後の長期的な課題として、米と同じような研究開発の努力も必要であると考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> 北海道農業研究センターや道の農業試験場などで、加工特性を踏まえた小麦の品種改良などが行われております。札幌市においては、様々な農作物について、その機能性の研究に対する支援なども行っております。
8	<ul style="list-style-type: none"> 利益を出していく商品づくりがゴール。デパートなどでの北海道の展示会で売れる商品がゴールになっているものが今は多い。量販で売れて、長く売れ続けることを目指した新商品開発をやっていくべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 「さっぽろスイーツ」などのブランド化の取組や生産拡大への支援などを行っておりますが、量販で長く売れ続ける、「定番商品」の創出にまでは至っていないと認識しております。 新たな「定番商品」を生み出していくための課題、札幌市が担う役割などについて、企業や業界団体の皆様からのご意見を頂きながら、検討してまいりたいと考えております。
9	<ul style="list-style-type: none"> 食の海外展開について、北海道のものは、高くて、おいしくて、安全だということが通じない時代が来ている。北海道だから高くて良いということにはならない。 	<ul style="list-style-type: none"> 食の海外展開について、今年度から、現地ニーズに合った製品開発・改良を行う際に補助を行う事業を実施しており、海外でのマーケティング活動に必要な費用なども補助対象としております。
10	<ul style="list-style-type: none"> 札幌のスイーツは、食分野の成功例。札幌のスイーツの評価、ネームバリューは上がっている。 女性の方がそういうことには非常に詳しいので、我々ももっと自覚してやっていくべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 札幌市は女性の割合が政令指定都市の中で一番高い一方、女性の有業率は全国平均を下回っております。 <u>ご意見を踏まえ、平成26年度において、女性ならではの視点による付加価値向上や新たな市場開拓を促進していくため、女性の起業支援策を検討しております。</u>

	ご意見	取組状況
11	<p>・中小企業の振興施策について、食に関してはイメージができるが、特に環境や健康・福祉分野では、中小企業のどのような事業が支援の対象となるのかイメージし難いと感じる。周知の方法などが重要。</p>	<p>・環境分野については平成24年度から、エネルギー転換に向けた創エネ、省エネ分野の取組みを支援しております。</p> <p>・健康・福祉分野については、平成23年度から新たな健康サービス事業の企画・運営や、医療・福祉分野等の研究開発の取組を支援しております。</p> <p>・両分野ともに事業を実施して間もなく、採択事例もまだ少ない現状ではありますが、事例の周知として、札幌市のHPや、展示会への出展支援などを行っているところです。</p> <p>・支援対象事業のイメージが湧くよう、より効果的な周知方法を検討してまいりたいと考えております。</p>
12	<p>・ITの関係において、もう少し企業と行政が話をできる場を作っていただければと思う。同じフィールドの中で議論をしながら進めていけば良いと思う。</p>	<p>・札幌市では、今後のより良い施策展開を図る上でも、直接お伺いし、企業様の声をお聞きする機会を大事にしていきたいと考えております。</p> <p>・IT 産業振興を担うさっぽろ産業振興財団とも協力し、各企業様への訪問（今年度、現在まで40件程度）に力を入れているほか、市内各IT 団体等とのネットワークを生かした交流の場も設けており、今後もそのような機会を少しでも増やしていきたいと考えております。</p>

2 札幌市の立地促進の方向性について

	ご意見	取組状況
1	<ul style="list-style-type: none"> ・コールセンターの人材確保が困難だという話を他方面からもよく聞く。札幌市内の主婦の方は、フルタイムよりもパートタイムで、扶養の範囲内で働きたい方が多い。 ・雇用のミスマッチが残念ながら起きているので、立地促進をするとともに、情報提供を札幌市から企業にするべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コールセンター就業者の裾野を拡大するため、求人情報誌やウェブサイトにコールセンターのイメージ向上を目的とした広告を掲載することや、市主催の合同企業説明会を開催するなど、コールセンター事業者の人材確保や雇用のミスマッチの予防を支援する各種事業を実施しております。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・バイオの分野について、オールドバイオ、ニューバイオがある。オールドバイオは、味噌、醤油などの醸造。 ・バイオの先端技術というとハードルが高く感じるので、オールドバイオという位置付けのようなものも作り、立地促進をさらに伸ばしていくようなあり方も必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バイオ分野とともに、食分野の立地を積極的に進めることとしております。 ・<u>ご意見を踏まえまして、現在、平成26年度から、食分野の立地に対してのインセンティブを高めることを検討しております。</u>
3	<ul style="list-style-type: none"> ・他の地域の方から見て、例えば東雁来工業団地というように地名＋工業団地という名称ではイメージが伝わり難いし、イメージも古い。 ・今後、工業団地を造成するのであれば、こだわりものづくり団地を表現するなど、ネーミングについてのマーケティングアイデアも必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、工業団地や工場アパート等を造成・設置する計画はございませんが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・2、3人の優秀な技術を持っている小さな企業が、機械だけを持ってきて入り込むとコストも抑えられるので、大きな工場アパートを作り、貸し出しをするという考え方もある。 	